

仙台大学 広報室



# Monthly Report

## 硬式野球部、1980年秋以来34年67季ぶり 3度目の優勝に輝く



表彰式で優勝旗を手にする奈良崎匡伸主将(体育学科4年—山形中央高校出身)  
—東北福祉大学野球場

5月29日(木)、東北福祉大学野球場で仙台六大学野球春季リーグ優勝決定プレーオフ3日目の「仙台大学—東北学院大学」戦が行なわれ、仙台大学が東北学院大学を6-4で下し、1980年秋以来34年67季ぶり3度目の優勝(春季リーグは初優勝)に輝きました。

くまぼらけんと

試合は、3回裏に仙台大学が先制しますが、4回表に先発・熊原健人投手(体育学科3年—宮城・柴田高校出身)が相手打線につかまり、3失点する苦

まつもとももたらう

しい展開。しかし、4回裏、4番・松本桃太郎選手(体育学科2年—北海道・北海高校出身)が右中間にソロ本塁打を放ち、1点差。6回裏には、1死満塁の

かとうだいち

好機から8番・加藤大地選手(体育学科4年—千葉・東海大望洋高校出身)が左犠飛を放ち、3-3の同点に迫りました。3-3の同点で迎えた8回裏1死1-

ちばしゆん

3塁で7番・千葉俊選手(体育学科2年—岩手・盛岡大学付属高校出身)が右犠飛を放ち、4-3と逆転に成功。2死1塁から8番・加藤大地選手(同)が右越え2点本塁打を放ち、6-3と一気に突き放しました。熊原投手は、9回に1点を失いますが、後続を抑え、仙台大学が6-4で勝利を収め、リーグ史上初のプレーオフを制しました。

本学硬式野球部は、6月10日(火)から神宮球場及び東京ドームで開催される「第63回全日本大学野球選手権大会」に初出場。本学は、6月11日(火)の2回戦(神宮)が初戦で、富士大学と福岡大学の勝者と対戦します。春季リーグ戦及び優勝決定プレーオフでは、柴田町の地域の皆さまをはじめたくさんの方々から温かいご声援を賜り、誠に有難うございました。

引き続き、仙台大学硬式野球部への熱い応援を宜しくお願い致します。

### < 目 次 >

硬式野球部、1980年秋以来34年67季ぶりの優勝に輝く	1
学内TOEIC IPテストを実施	3
美里町仮設住宅中埜団地から感謝状を授与	4
デンマークリレベルト大学教員による授業並びに国際交流会議を開催	5
ドイツカール・フォン・オンエツキー大学オルデンブルクと国際交流協定調印式及びワークショップを開催	5
学生の競技結果	6

学生の活躍や、取り組みをご存知でしたら  
広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関  
にも旬な話題を提供していきたいと考えて  
おります。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、  
広報室までご一報ください。

#### 広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

渡辺誠司 271

土生佐多 200

Email:kouhou@sendai-u.ac.jp

## スポーツのカーワンコリアフェスティバル2014



4月28日(月)～5月5日(祝・月)に31年ぶりに東京で卓球世界選手権が開催されましたが、これに先だち、東アジアの平和を含め韓国と北朝鮮の統一を願うことを主旨として、公益財団法人主催で応援の特別企画イベントが明治大学で開催されました。23年前に千葉市で開催された卓球世界選手権で韓国と北朝鮮がたった一度だけ統一チームとなって中国に勝って優勝し、その実話が2年前に映画化されました。

その大会でエースだった玄静和さん（現在は韓国卓球協会理事）と映画監督およびスタッフが、その特別企画イベントに参加するため来日し、私も元中国ダブルスチャンピオンの肩書で元日本卓球チャンピオン松下浩二氏と共にゲストとして招待され、「卓球イベント」の部で中国代表として玄さんとラリーを行ったり、映画監督ムンさんと親善試合を行ったりしました。会場には平和を願う500名の観客が来場し、卓球の観戦や玄さんからの大会当時のエピソードの紹介などで大いに盛り上がりました。

東アジアの国々の関係は依然として緊迫状態が続く中、卓球を愛好する人間として、かつてのピンポン外交を思い起こし、スポーツを通じた日中友好、また東アジアの平和希求は大変意義のあることであり、今後も政冷経熱の実態の克服のために、日・中・韓のスポーツによる相互理解・連帯に努めてまいりたいと考えております。

<報告：講師 馬 佳濠>

## 全国一斉「自転車月間」



今月（5月）は、全国一斉「自転車月間」が実施されることに伴い宮城県警でも「自転車安全利用等指導強化月間」と定め良好な自転車交通秩序の実現に向け大河原警察署として柴田町、関係機関・団体と合同で「自転車広報キャンペーン」を実施することになり、本学学生に参加依頼がありました。その呼びかけに応じて、当日は男子サッカー部員10名がボランティアとしてキャンペーンに参加しました。

朝7時50分から9時まで実施されJR船岡駅前等において駅利用者や、自転車利用者に対し「自転車の正しい乗り方」のチラシ交通安全グッズ、自転車盗難防止グッズ、ティッシュなどを配布しながら、交通安全等を声かけしました。

〈参加団体・人員数〉

柴田町、柴田地区交通安全協会、  
地域交通安全活動推進委員、  
自転車安全利用等指導員、  
大河原警察署、仙台大学 計約60名

<報告：学生課 平井孝秀>

## 仙台89ERS 2013-2014シーズン スポンサー感謝の集い



左からOB佐藤選手、朴澤理事長、OG鈴木さん、齊藤

5月14日(水)、仙台勝山館(仙台市青葉区)にて開催された「仙台89ERS 2013-2014シーズンスポンサー感謝の集い」に朴澤理事長・学事顧問と出席致しました。会場には(株)ボディプラスインターナショナル・(株)河北新報社・(株)カメイ・(株)七十七銀行などをはじめとした50社以上のオフィシャルスポンサー企業の方々約70名が地元のプロチームを支援しようと参加しました。

最初に仙台89ERS球団代表中村彰久氏より、シーズンが東地区8位で終了した報告、今シーズンにおける各企業からの協力への感謝と、来シーズンこそ東地区1位を狙うという目標について挨拶がありました。この「スポンサー感謝の集い」は、シーズン終了のご報告を兼ねて、スポンサー企業同士が交流する機会を作ることを目的に、今回初めて開催されたそうです。

早速会場では(株)グランスポールをはじめとする企業数社が朴澤理事長・学事顧問へご挨拶なさっていました。仙台大学としても(株)ボディプラスインターナショナル、(株)河北新報社、(株)ブレインと交流を持つことができました。

チアリーダーのパフォーマンス、選手との交流の時間もあり、朴澤理事長・学事顧問はOB佐藤文哉選手(平成25年体育学科卒一宮城・明成高校出身)に「お疲れ様だったね」とお声をかけ、佐藤選手は「シーズン後半はプレスが激しく、思うようにシュートが打てませんでした。」と無念の表情で報告していました。また、チアリーダーの鈴木保之香さん(体育学科卒一宮城広瀬高校出身)に「改めて卒業おめでとう」とおっしゃると「ありがとうございます」と答えられるなど、本学卒業生との会話を楽しんでいらっしゃいました。近シーズンは、佐藤選手がチームの起爆剤になれるよう更なる活躍に期待がかかります。

<報告:新助手AT・川平:齊藤広子>

4月1日(火)より、本学のPR看板広告も掲出されているJR仙台駅2階の看板広告(クイックビジョン15秒看板/新幹線乗り場につながる中央エスカレーター左右サイド)に仙台89ERS・佐藤文哉選手を起用。本学卒業生として紹介しています。

## 学内TOEIC IPテストを実施



テスト前に注意事項を読み上げる笠原准教授  
=大学院研究棟E303教室

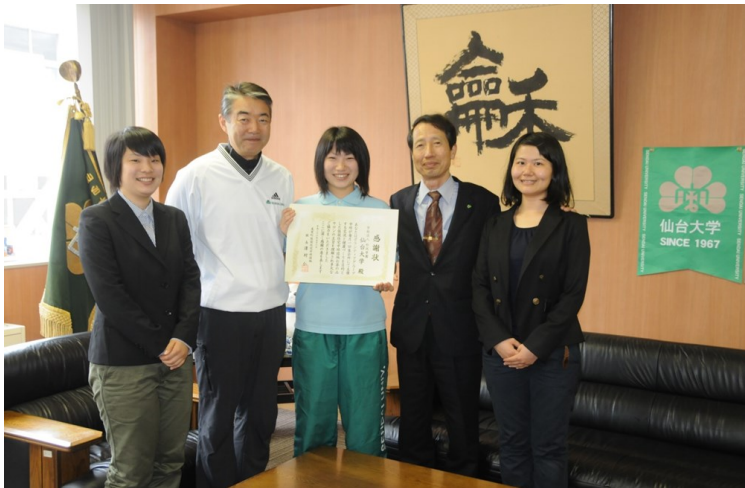
5月14日(水)16時~18時の間、本学大学院研究棟E303教室で「学内TOEIC IPテスト」が実施され、本学学生6名が同テストに臨みました。

国際コミュニケーション英語能力テスト(Test of English for International Communication)、通称TOEICは、英語を母国語としない者を対象とした英語によるコミュニケーション能力を検定するための試験です。TOEICの団体特別受験制度(IP)は、個人単位での受験ではなく、企業・団体・学校単位でTOEICの各テストを受験できる制度です。

本学では、海外留学・研修への参加を考えている学生や留学するかどうかを迷っている学生に対し、自己の英語能力を把握することを目的として、受験を促しています。

学内TOEIC IPテストの試験官を務めた笠原岳人准教授(国際交流センター企画委員)は、「学内でTOEICテストを受験できると費用が若干安くなり、受験しやすいというメリットがある」「自分の英語の力を試す大事な試験。海外留学・研修を考えている学生は、積極的にTOEIC IPテストを受けてほしい」と話しました。

## 美里町仮設住宅中卒団地から感謝状を授与



災害ボランティアを代表し感謝状を手にする佐々木さんと大学関係者  
＝学長室

5月15日（木）、仙台大学健康づくり支援班の橋本実教授（左から2番目）・柳澤麻里子（右端）・松浦里紗（左端）の両助手及び災害ボランティアを代表して学生の

ささきりさ  
佐々木里紗さん（中央／健康福祉学科4年一岩手・一関学

なかそね  
院高校出身）が学長室を訪れ、美里町仮設住宅中卒団地班長から感謝状が贈呈されたことを阿部学長（右から2番目）に報告しました。阿部学長からは、災害ボランティア活動に対する感謝と労いの言葉がありました。

美里町には東日本大震災で東松島から南郷体育館に避難されていた方々と内陸にもかかわらず家が倒壊し避難された中卒地区の方々があり、月一回健康づくりを支援してきました。避難所から仮設住宅に移り、昨年末から順次復興住宅に移られる方が増え、この5月末で仮設住宅が閉鎖されることになりました。この感謝状は、美里町中卒仮設住宅集会所で約2年間、「健康づくり茶話会＋楽しい運動」を行なってきた仙台大学の活動に対し、避難生活をされていた方々から授与されたものです。

橋本教授は「震災以来、中卒地区の方々との健康づくりのための運動指導と交流を行なってきました。感謝状を頂き、嬉しい限りです。これからも中卒地区はもちろんです。我々の活動を心待ちにしてくださる被災地の方々の健康づくりのため、各地で活動を続けて参ります。また、多くの学生にもこの活動に参加して頂き、人に喜んでもらうことの嬉しさを知ってもらいたいと考えています。」と話されました。

## 留学生親睦・ベガルタ仙台試合観戦会



5月18日（日）ユアテックスタジアム宮城で行われた、サンフレッチェ広島VSベガルタ仙台の試合を観戦してきました。

なかなか観る機会のないサッカーの試合観戦ということで、9名の留学生（タイ3名、台湾3名、中国2名、韓国1名）は心を躍らせながら、スタジアムに向かったことと思います。試合は前半16分ベガルタ仙台の赤嶺選手のゴールで先制！！スタジアムの熱気が最高潮に達したとき留学生もガッツポーズをして喜んでいました。その後もキーパーのナイスセーブなどがあり、先制点を守り切ったベガルタが勝利して4連勝を飾りました。それに加え、当日の観客動員数は今季最多の18,863人だったそうで、留学生もベガルタサポーターと共に応援で盛り上がっていました。今回の試合観戦を通して親睦を深められたと同時に、大観衆の中での躍動感あふれる試合に感動しました。

また、昨シーズン大活躍だった本学卒の蜂須賀選手（平成24年体育学科卒）は、昨年12月に負った怪我の影響で出番がなく残念でしたが、怪我を治して復帰し活躍することを願っています。

<報告：学生支援室 茗荷谷なつみ>



## デンマーク リレベルト大学教員による授業並びに国際交流会議を開催



柔道場にてSonja Schulte准教授による授業の様子



国際交流会議の様子

4月21日（月）から23日（水）まで、本学の国際交流協定校であるリレベルト大学（デンマーク）のMette Richter准教授とSonja Schulte准教授が本学との交流のために来学されました。滞在中にはSonja Schulte准教授が「介護福祉とレクレーション活動援助」および「介護概論Ⅰ」の授業内で「イメージ・シアター」について英語で講義をされ、授業に出席した学生たちは感情や物事を言葉ではなく、体で表現することに挑戦しました。授業後のアンケートには「介護士の仕事は必ずしも健康的な人だけを対象とするわけではなく、話せない人もいます。相手の意図をくみ取ってあげたい時に今回の授業は大変役立つと思います。」や「最初はとまどいもありましたが、グループで協力していくうちにどのように表現すれば上手く伝わるか真剣に考えて参加することができました。」などの感想が寄せられ、中には英語で回答されたものもありました。

また、国際交流会議も開催され、今後の両校間における交流発展の可能性を探る時間となりました。

今年9月にはリレベルト大学理学療法学科学生4名が本学を訪問し、学内施設並びに宮城県内の病院等施設を視察する予定です。

<報告：事業戦略室 遠山知寿>

## ドイツカール・フォン・オシエツキー大学オルデンプルクと国際交流協定調印式及びワークショップを開催



協定書に調印後、固く握手を交わすアルケマイヤー教授(左)と阿部学長＝仙台大学

平成26年5月29日（木）仙台大学は、ドイツカール・フォン・オシエツキー大学オルデンプルクと国際交流に関する協定書（更新）に調印しました。本学とドイツカール・フォン・オシエツキー大学オルデンプルクとは、平成22年2月22日に、国際交流協定を締結しましたが、有効期間満了に伴い、更新の調印式が行なわれました。

調印式には、本学の阿部芳吉学長・高橋まゆみ国際交流センター長やカール・フォン・オシエツキー大学のトーマス

・アルケマイヤー教授ら10名が出席。阿部学長とアルケマイヤー教授がそれぞれ協定書に署名し、交流をさらに活性化させることを確認しました。

また、調印式終了後<5月29日（木）>とその翌日<5月30日（金）>には、「現代の系譜学」ワークショップが本学で開催されました。カール・フォン・オシエツキー大学オルデンプルクからは、アルケマイヤー教授とニコラウス・ブッシュマン、レア・コダレの両研究員が、本学からは小松恵一教授と藪耕太郎講師が日本とドイツの近代のあり方を発表。その諸相について両大学の研究者から闊達な討議がなされ、大変有意義な研修会となりました。



## 中国・長春市から仙台国際ハーフマラソン大会招待選手らが来校



5月12日（月）、柴田町日中友好協会の中島会長及び中国・長春市から第24回仙台国際ハーフマラソン大会に招待された選手らが朴澤理事長・学事顧問に挨拶に来られました。

## タイのシーナカリンウィロート大学の教員らが来校



5月13日（火）、タイのシーナカリンウィロート大学の教員らが来校しました。現在、本学に留学中の3名の学生との面談を行ない、本学の関係各位と今後の国際交流推進に向けた打合せを行ないました。

## 仙台大学同窓会宮城中央支部総会を開催



親睦会の様子=味吉祥

宮城県内で2番目の設立となりました宮城中央支部総会が5月10日（土）18時から仙台市内「味吉祥」で行われました。参加者は支部会員は4回生から32回生までの同窓生14名、大学からは朴澤理事長・学事顧問、阿部学長、若井副学長、鈴木同窓会長他4名の8名、計22名でした。設立まではなかなか多難でしたが、世話人の狩野なぎささん（塩竈高校）のご尽力で、支部長に佐藤一拡さん（松陵中学校校長）、事務局長に佐藤かほるさん（しらかし台中学校）が満場一致で選任され発足いたしました。懇親会では、理事長・学事顧問、学長の挨拶のあと、参加者自己紹介があり、大学創立当時のエピソードから現在の状況などについて和やかに話し合い、旧交を温め合いました。次回には、更に多くの参加者で盛会を期待し総会を終わりました。

＜報告：仙台大学OB参与 大河原則夫＞

## 硬式野球部、東北福祉大学から1980年秋以来34年67季ぶりに勝ち点を挙げる



最後の打者を三振に打ち取り、喜びを表す馬場投手＝東北福祉大学野球場

5月12日（月）、仙台六大学野球春季リーグ第五節は、1勝1敗で迎えた「仙台大学—東北福祉大学」の3回戦が行なわれ、本学が東北福祉大学を7-4で下し、1980年秋季以来34年67季ぶりに東北福祉大学から勝ち点を挙げました。これで勝ち点を「4」に伸ばし、単独首位に立ちました。

試合は、本学が2回表無死、4番・松本桃太郎選手（体育学科2年—北海道・北海高校出身）の今季3号ソロ本塁打（通算7号）で先制。松本選手は2安打3打点と活躍しました。また、3番・大坂智哉選手（体育学科2年—青森山田高校出身）がおおさかともやが逆転打を放つなど5打数2安打1打点。

くまばらけんと

投手陣は、熊原健人投手（体育学科3年—宮城・柴田高校出身）—野口亮太投手（体育学科4年—群馬・前橋商業高校出身）—馬場阜輔投手くまばらけんと（体育学科1年—仙台育英高校出身）の継投で踏ん張り、東北福祉大学の強力打線を9安打4失点に抑える粘り強い投球を見せました。

試合終了後、森本監督は「一人ひとりが粘り強く頑張ってくれた」と選手たちを労い、「東北福祉大学から勝ち点を取れたことは、自信と誇りにつながる。まだ優勝したわけではない。（次節）東北学院大学戦もしっかり戦いたい」と気を引き締めていました。



今季3号先制本塁打（通算7号）を放った松本選手がベンチ前で気合の入った表情を見せた

## 硬式野球部、東北学院大学から勝ち点を取れず—仙台六大学野球



6番・薄井新選手（体育学科3年—栃木・矢板中央高校出身）が逆転となる2点適時打を放つ。＜東北学院大学3回戦＞＝東北福祉大学野球場

5月19日（月）の仙台六大学野球春季リーグ第六節は、1勝1敗で迎えた「仙台大学—東北学院大学」の3回戦が行なわれました。

両校とも一步も譲らない白熱した試合でしたが、本学は東北学院大学に3-8（タイブレーク延長10回）で惜敗しました。

本学硬式野球部の34年67季ぶり、悲願の春季リーグ初優勝の瞬間を一目みようとして、5月17日（土）は300名以上、18日（日）には400名以上もの本学の学生・教職員・姉妹校である明成高校の関係者及び柴田町の地域の方々が駆け付け、選手たちに熱い声援を送り続けて下さいました。

東北学院大学から勝ち点を取れませんでした。最終節＜5月24日（土）・25日（日）＞の「東北福祉大学—東北学院大学」戦で東北福祉大学が2勝1敗で勝ち点を取った場合は、勝ち点・勝率とも仙台大学・東北学院大学・東北福祉大学が並ぶため、3校の総当たり戦によるプレーオフが行なわれます。本学硬式野球部は、プレーオフに最後の望みを託すことになりました。

## 硬式野球部、優勝決定プレーオフで東北福祉大学を下し、34年ぶりの優勝へ王手



写真提供：仙台大学スポーツ情報マスメディア学科

粘り強さと気迫の投球を見せた熊原投手＝東北福祉大学野球場

5月27日（火）、東北福祉大学野球場で「勝ち点」と「勝率」で並ぶ仙台大学・東北福祉大学・東北学院大学の3校による仙台六大学野球優勝決定プレーオフ（リーグ史上初）1日目「仙台大学－東北福祉大学」戦が行なわれ、仙台大学が東北福祉大学を3－2で下し、34年ぶりの優勝に再び王手をかけました。

5月27日（火）、東北福祉大学野球場で「勝ち点」と「勝率」で並ぶ仙台大学・東北福祉大学・東北学院大学の3校による仙台六大学野球優勝決定プレーオフ（リーグ史上初）1日目「仙台大学－東北福祉大学」戦が行なわれ、仙台大学が東北福祉大学を3－2で下し、34年ぶりの優勝に再び王手をかけました。試合は、初回にソロ本塁打を浴びて先制点を許すも、6回表に1番・志田一茂選手（体育学科4年－岩手・大船渡高しだかずしげ校出身）、2番・奈良崎匡伸主将（体育学科4年－ならさきまさのぶ山形中央高校出身）、3番・大坂智哉選手（体育学科2年－青森山田高校出身）の3連続長短打で2点を奪い逆転。9回表は1死満塁から8番・加藤大地選手（体育学科4年－千葉・東海大望洋かとうだいち高校出身）の内野ゴロの間に1点を追加。先発・熊原健人投手（体育学科3年－宮城・柴田高校出身）は、9回に1点差まで詰め寄られますが、粘り強さと気迫の投球で見事な完投勝利を収めました。

## 女子柔道部、東北学生柔道優勝大会で8連覇を達成



貫録の一本勝ちを収めた大将・中村選手＝宮城県武道館

5月25日（日）、宮城県武道館（仙台市太白区）で「平成26年度河北優勝旗争奪東北学生柔道優勝大会」が開かれ、仙台大学女子柔道部は富士大学を3－0、東日本国際大学を4－1で下し、8年連続8度目の優勝を果たしました。

つきのまな

先鋒・月野眞那選手（現代武道学科2年－愛知・大成高校くどうちか出身）と次鋒・工藤千佳選手（現代武道学科3年－青森・五所川原農林高校出身）が2試合全てで一本勝ちを収め、大会優秀選手に選ばれました。

また、東日本国際大学戦に登場した全日本女子なかむらゆう柔道選手権東北第1代表の大将・中村優選手（現代武道学科3年－静岡・藤枝順心高校出身）【＝写真】も貫録の一本勝ちを収めました。

女子5人制で8連覇を達成した南條和恵監督は「8連覇は、毎日在必死で戦ってきた足跡。全国で勝つためには、勝ち切る“勝負強さ”と“したたかさ”を身に付ける必要がある。今年のチームは、全国でも十分に戦える力がある。今年こそはベスト8の壁を突破したい」と全国大会に向けて闘志を燃やしていました。

なお、本学女子柔道部は、6月28日（土）に東京・日本武道館で開催される「全日本学生柔道優勝大会」に出場します。引き続き、仙台大学女子柔道部への熱いご声援を宜しくお願い致します。



大会優秀選手に選ばれた月野選手



## 女子フロアボール部、2014年世界学生フロアボール選手権大会に 本学から3名選出



(左から)佐藤・黒田(中央手前)・宇野澤の日本代表三選手  
=仙台大学第一体育館

2014年6月18日(水)～22日(日)の5日間に、シンガポールで開催される「2014年世界学生フロアボール選手権大会」の日本代表として、本学女子フロアボール部の  
うのさわり  
DF宇野澤衣里選手／日本代表副主将(体育学科4年一宮  
さとうしおり  
城広瀬高校出身)・FW佐藤詩織選手(健康福祉学科4年一宮城・築館高校出身)・FW黒田こはる選手(体育学科2年一宮城広瀬高校出身)の3名が選出されました。

「体を張ったディフェンスと強烈なミドルシュートが持ち味。副主将として主将のサポートはもちろんのこと、チームを盛り上げ良い雰囲気を作っていきたい」(宇野澤選手)。「世界トップレベルの大会を楽しみたい。ゴールやアシストをしっかり決めて、チームの勝利に貢献したい」(佐藤選手)。「初の国際試合。自分らしいプレーを心がけたい。相手の裏を狙うパスとシュートを狙い、チームの流れを作りたい」(黒田選手)。とそれぞれ国際大会へ挑む意気込みを話しました。

同選手権大会への参加国は、日本・スイス・スウェーデン他計6ヶ国。日本はマレーシア・シンガポールの3チームによる総当たり戦を行ない、1位通過で決勝トーナメント進出となります。

世界の舞台へ挑戦する本学女子フロアボール部の日本代表三選手に、熱いご声援を宜しくお願い致します。

### <フロアボール>

1チーム6人で、コートは縦40メートル、横20メートル。試合時間は1ピリオド20分間の3ピリオド制。スティックを使ってプラスチック製のボールを相手チームのゴールに入れて得点を競う、室内で行う団体球技。